



ホテル せせと丸長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

事務長会報第33号

平成25年3月31日

長崎県公立学校事務長会

長崎北高等学校内

〒851-1132

長崎県長崎市小江原1-1-1

電話 (095)844-4411

ばってん



明日への期待

事務局長（清峰高等学校）朝日勝己

2月初旬に給湯器の不具合でお湯が出ず、朝から水で顔を洗うと、飛び上がるような冷たさに一瞬で目が覚め、その冷たさは手の骨にジンジンと痛く染み渡りました。思えば昔は蛇口の水は季節に応じた水温の水が出てくるもので、冬の水は冷たいという認識は当然でしたが、今は蛇口を捻れば適度な水温の水やお湯が出てくるのが当たり前という感覚に浸りきっている自分に気づかされました。

これまでの仕事を振り返れば、学校事務職員に採用された当時の校内印刷はヤスリ板の上にロウ原紙を置き、鉄筆でガリガリと原稿を書き、手動式の輪転機を使って印刷を行っていました。謄写版のスクリーンにインクを塗って一枚ずつ印刷をしていた時代の後であったことは幸いであった。その後原稿作成はロウ原紙の代わりとしてボールペンで書けるボールペン原紙やファックス原紙が出現し、鉄筆の代わりに和文タイプライターやワードプロセッサなどが職場に出回り、その度に使用方法を学び、不慣れな手つきで操作を行っていました。そうこうしているうちに現在はご存じの通りパソコンで資料や印刷原稿を作成し、職員室の片隅でベルトがガタン・ゴトンと騒がしく動いていた輪転機の代わりに、静かなデジタル印刷機が資料製作に貢献しています。このように職場環境のハード面は革新的に発展してきました。

一方、学校事務の職務内容は、総務、人事、財務、経理等々と範囲は広く、その事務処理の量も多く、質も高くなってきています。長崎県公立学校事務長会及び九州地区公立学校事務長会の各研究協議会では、その時宜に応じた制度等のテーマの研究協議が行われています。事務の合理化や能率化についても、これまで行財政改革の波が押し寄せるたびに、業務の簡素化、機械化などで対処されてきていますが、特に近年の県公立学校事務長会や九州地区公立学校事務長会において業務改善や人材・後継者育成などが研究協議で取り上げられるようになってきています。このことは、近年の行財政改革等の波の中において、多くの問題と課題が山積していることが考えられます。具体的には本県公立学校事務長会秋季研究協議会においても課題意識の深化と共有を図るため業務改善の研究協議を延べ3回行うこととなり、その結果として平成25

年度から事務長会調査部調査委員会を中心に研究し、業務改善に取り組んで行くこととなったことでも明らかです。調査部調査委員会からは早速「業務改善アクションプラン」として意欲的に研究の素案が検討されており、業務改善に向けた業務の内容・処理方法・分担の改善、人材育成、メンタルヘルスの配慮等職場環境の指針が示されることと思います。業務改善の端的な方法は業務のスリム化ですが、本会は本県学校教育の一層の充実発展を図るため、時代の変化に対応した学校事務の改善と自らの資質の向上に努め、会員相互の連携を深めることを目的とし（第2条）、その目的達成のために調査・研究を行い、解決の方途を明確にして、具体的方策を提言できる集団を目指しています。事務長会発足以来、事務長及び事務職員等の身分、処遇改善等について校長会と連絡提携して、関係機関に改善を要望し、進展容認された事項もあります。現在も業務の改善については、校長会等との協力連携を行っています。このことから、何のために業務を行い、何が欠かせないものなのかを認識し、手続きの簡素化、制度の不具合の除去、不安を和らげられる施策を研究する必要があると思います。

本会会長の選出方法は、現会長の提案により平成25年度から公募制が導入されることとなりましたが、この提案を2年間その職にあった会の責任者が提案された立場や心情はいかばかりか。その思いは他の者には計り知れない深い思い（意味合い）があったのではないかと拝察されます。後3年の平成27年度で創立60周年を迎えるこの会において、代表者を公募で行うという取り組みは初の試みではないかと思えます。少なくとも平成17年度事務長会会則改正前後からは初めてであり、革新的なことであると思えます。つまらない感慨はさておき、確かに時代は転換してはいますが、始めるより終わるのが難しいのが戦いの常であると言われることから、このことを安易に評価することは早計であると思えます。足元を固め、一枚岩となって多種多様な対応策に即応できる態勢を心懸け、若手からベテランまでそれぞれが職場に感動、勇気、満足そして笑みがこぼれる機会が多く見られることができるように知恵を絞る必要があります。世の中に貢献しているというやりがいや働く意欲を維持するために、評価できる画期的な業務改善に取り組み、平成28年度の九州地区事務長会長崎大会までには、その成果を九州各県に発表できることを願います。

一日々是好日

長崎西高等学校 末永久幸



退職の日まであと2か月となった。正に秒読みに入ったところである。最早この身では来し方を振り返るしか術はなく、これからを担っていかれる事務長会の皆さんにとって何の役にも立たないであろうことを承知の上で、今この稿を認めている。最後まで我が儘をお許しいただきたい。

私は昭和51年に、出身地に近い北松農業高校に事務職員として採用され、学生気分抜けやらぬまま呑気に着任した。ここで二人の素晴らしい先輩と出会うことができた。

お二人は事務職員としての極めて高度な専門性を持っておられたのであるが、驚くべきは、現状に甘んじることなく更なる高みを求め続ける気迫と執念であった。初心者の私は圧倒されるばかりで、不安と焦燥の日々が続いた。両先輩とはそれから6年間ご一緒し、沢山のことを学ばせていただいた。今のような手取り足取りの指導とはほど遠い「仕事は見て覚えろ、真似て覚えろ。」の時代で、必死で付いて行くしかなかった。農業高校は、施設・設備も多く、実習会計という他校種にない事務がある。農場に行けば牛や豚、季節の花に野菜・

果樹、変化に富んでいて、多忙な中にも次第に仕事の面白さや楽しさが感じられるようになっていった。

昭和57年に総務課勤務を命じられた。この年の7月が「長崎大水害」である。何日間かは作業着をまとい災害現場で救援作業などに当たった。次の年に広報係に配属された。係といっても係長と私だけの庁内で最も小さな係である。ここは教育庁の情報発信と収集の窓口でもあり、庁内はもとより他部局や関係団体、報道機関などの多くの方々と近づくことができる。ありがたい事に、この時のご縁が今も続いている。

苦い思い出もある。中国の表敬訪日団の方と教育長との記念写真を、フィルムの入っていないカメラで撮影したこと（最早撮影とは言えないが・・・）、広報紙「県教委だより」の学校紹介の記事の中で、その学校の校章を逆さまに印刷して発行したことなど、失敗談は数え切れない。当時の伊藤教育長は笑って許して下さったが、なんと寛大なお人柄であったことか。

教職員課時代には「雲仙普賢岳災害」が発生した。後の「阪神淡路大震災」、「東日本大震災」など、在任中にいくつもの大災害が起こった。

教育庁最後の文化課では、歴史・考古学・芸術・文学・自然科学など、様々な分野の専門家の方々との出会いがあった。多角的に物事を見ることの大切さを学ばせていただいたのはこの時である。しかし、壱岐安国寺の「大般若経」など国指定重要文化財が在任の2年間連続して盗難に遭い、文化財管理担当係長としてその任を果たすことができないというつらい体験をここでもした。

その後、二つの教育事務所と教育センターに勤務した。初めて義務教育に携わる方々の知己を得る機会を与えていただき、有能で人間の魅力に満ち溢れた素晴らしい人たちと出会うことができた。今は教育庁や学校現場で重要な仕事をしている方も多く、感慨深いものがある。

事務長としては、工業高校・商業高校・普通科高校の3校で勤務させていただいた。初任校と合わせ、特別支援学校があれば全校種制覇(?)となるところであった。

3校8年間は校舎改築や耐震補強など工事に明け暮れたが、

最も大変だったのは県事務職員協会長を仰せつかったことであつた。就任時は、折しも九州協議会長崎大会を目前にしており、協会の組織見直しとともに、大会を成功のうちに終えることが大きな課題であつた。この時は慣例を破って先輩事務長さん方に協会副会長や大会実行委員会の各部長をお願いするとともに、中堅事務職員の皆さんに語り尽くせないほどの働きをしていただいた。

37年の間にはつらいこと・苦しいこと・悲しいことが幾度となくあつたが、不思議なことに最後は何とか乗り越えることができた。改めて思うのは、自分が如何に多くの人たちに教えられ、助けられ、支えられてきたかということである。出合いをいただいた周りの方々のお陰であると心から思えることも幸いである。

ともすると人は悪いことばかりを覚えていてそれを口にしがちであるが、実はささやかであっても喜びや充実感に満ちた経験をそれ以上にしているものである。先人が「禍福はあざなえる縄のごとし」と言っているとおりである。そう思えば、「禍いある時」をあるがままに受け容れることができるし、「福なる時」にも謙虚になれるというものであろう。

自分の事は棚に上げ人には厳しさを求め続けてきた私にとって、雲門禅師の説かれた「日々是好日」の境地はほど遠いが、原点に立ち返り、最後まで一瞬一瞬をそして一日一日を淡々と積み重ねていきたいと思う。

どうやら退職手当引き下げをニアミスで躲し退職できそうである。日頃の行いが良かったからでもあるまいに、次年度以降退職の方にはお気の毒と申し上げるほかはない。（ここは書くべきか大いに迷ったところである・・・）

今後は生来の豊かな好奇心を遺憾なく発揮し、趣味の野菜作り・写真撮影・卓球などにも興じたいと思っている。生活のためには引退など許してくれない我が家の主人（連れ合い）の命により、もう少しどこかで働くことになると思うが、最大の理解者である愛犬「太郎」と「佐助」とともにつましく生きていくつもりである。

今学校事務を取り巻く環境には厳しいものがあるが、會員の皆様が人との関わりを大切にしながら、新たな学校事務を創造すべく健闘されんことをお祈りしている。

「耳」と「耳」の間でスポーツ

高原翔南高等学校 山崎 健二

皆さん、『ゴルフ』をしたことはありますか。直径約1.68インチ、重さ約45.93グラムのゴムボールを、棒の先についた金属（木製などの場合もある）の塊で打って、100~600ヤード先の直径4.25インチの穴の中に、出来るだけ少ない打数で入れた方が勝つ、というゲームです。こう書くと結構単純で簡単そうなのですがいざやってみると…、なかなか奥が深く難しいスポーツです。ゴルフは個々のレベルにより難易度も変化しますが、結局はスポーツ（ゲーム）であり、私たちににとっては娯楽です。プロゴルファーでも目指さない限りは、ゴルフが上達しなくても、日々の生活に影響が出ることはないでしょう。土日にプレーするのであれば、1回1万円から2万円のお金を払ってプレーすることになるので、「楽しまなければ損」ですよね。ではどうやってゴルフを楽しみましょうか？スコアは少しでもよく、ただドライバー（一番ウッド＝一番遠くへ飛ばす道具）を思い切り振り回し、「1ヤードでも人より遠くへ飛ばせれば満足」と言う人もいます。チョコレートをかけて、相手より1打でも少なくプレーし、勝つことを望む人もいます。楽しみ方はそれぞれです。しかし基本的には打数が少ない方が良いとされるスポーツなので、出来るだけ少ない打数でプレーできるように努力しなければなりません。

上達のコツは、グリップでもなく、スイングでもなく、筋力でもなく…、「耳」と「耳」の間にある物。そう頭（頭脳）です。ゴルフは1ラウンド約4時間かかりますが、そのうち体を動かすスイングの時間は、ほんの数分間です。後はずっと歩きながら考えているのです。何を考える？第一に天気、

気温、湿度、風向風速などの気象条件。第二に残り距離、フェアウェイの広さや池・バンカーの有無などコース攻略の難易度、芝の状況、ボールの状況など、そのホール毎の現状。第三に自分の技術やスイングの調子、体調や筋肉の疲労度など、プレーヤーとしての現在の状態。この三つの要素を常に冷静に状況分析することが大切です。その後、その状況下で最適な自分のショットを選択し、それを一打一打積み重ねて行くのです。ある有名なゴルフ選手は「ゴルフ場で起こる出来事に敏感に反応してはいけません。そよ風に吹かれるようにさらりと受け流す方がよい。」と言っています。OBを打つても、バーディをとっても、さらりと受け流して次の一打に冷静に集中する。そのことがラウンド終了後のスコアカード提出時に「成果」となって現れると思います。喜びや怒りに我を忘れ、自暴自棄なプレーを続ける限り、「反省」しか残らないラウンドを重ねることになってしまうのです。



38年を振り返っての雑感

長崎県立盲学校 木村 孝裕

私が学校事務職員になったのが、昭和50年。今から遡ること38年前。今以上に若々しく元気一杯？あれは何月何日だったろう。家の電話（当時は固定電話しかない時代）が突然鳴った。県の担当の方からだった。「イキに決まりましたがいきますか？」という電話なのだ。突然の連絡を受け「イキ」が何処なのか知らないまま「行きます」と返事した。壱岐の方には申し訳ないが、それから地図帳を開き壱岐を確かめた。恥ずかしい話である。情けないことにこれが旅立ちの始まりなのだ。壱岐高校に挨拶に行った。しかもジーン姿で。今思うとなんと非常識な格好だったろう。中年のおじさんが何かを組み立てていた。「何されてるんですか？」「あなたの机ば組み立てよっとたい！」この先どうなるんだろう。不安な気持ちでいっぱい。当時の校長（長崎北陽台高校の初代校長）からは、事務をやるなら算盤の練習とこより作り。と訓辞を受けた。古い事はよく覚えているのだ（今のことはすぐに忘れてしまうのに）。そんなこんなで不安で情けない新生活が始まってしまった。だが、人間というものは経験を積んだり年齢を重ねることによって図太くなっていくものだ。新設の長崎北陽台高校での経験（総てが新鮮な頃）。本庁、教育機関、地方機関での学校とは違った経験（段々初々しさが無くなってきた頃）。そして以前のイメージとは違ってしまった学校での勤務（図々しさを頭を擡げてきた頃）と職場を転々とした。生々しい職場や文化の香り高い仕事、社会人との付き合い、小中学校の先生方との交流など多くの経験ができた。人間的には成長できなかったが、お陰で尻に火が点いても熱さを感じないくらいの図々しさだけは身につけることができた。そして今は静かに盲学校で最後を迎えようとしている。その間、

皆んなにはいろいろと迷惑をかけてしまったが、何とか卒業できそうである。それぞれの職場でそれぞれ楽しいこと辛いことがあった。語り出せば与えられた紙面が幾らあっても足りないくらいである。其の度ごとに周りの皆んなに助けられた。本当にこれまでの仲間は私の一生の宝物だ。ところで最近の私といえば、素晴らしいスタッフに恵まれ「空」の状態です。生物学者で日本めだかトラスト協会の会長でもある岩松鷹司先生が「私は空になりたい。空気みたいな存在でありたい。」と言われた。普段は空気の存在を誰もが意識してない。が、しかし、空気がないと地球上の生物は生きていけない。私は岩松先生みたいには達観できないが少しでも近づきたい。そう思う日々なのである。そう思うのは齢60を過ぎたからだろうか。あと残り僅かになったせいだろうか。私の存在には誰も気づかない。ただ、私が消えたときに存在を意識する。そういう存在でありたい。と願う日々である。人生の終焉を迎えた人間のようなのだが、やっと思も着ず自然体で仕事ができるようになった（なれた？）。遅い目覚めである。これから学校の仕事は環境も含め更に困難を極めていくと思う。「無事これ名馬」という言葉があるように、皆さん！体には十分に気を付けられますように。仕事は誰かが代わられる。しかし、貴方（女）の代わりは居ませんので！私だから言える言葉である。何某かの教訓を垂れる能力もないので「純粋で清らかな心を持っていた幼かりし頃」の私を載せ、名残は尽きないが皆さんの奮闘を祈念申し上げてペン置くことにする。



幼なかりし頃の私

「三つの言葉」を胸に

松浦高等学校 富永 宏美



採用されて30年目を迎えています。中学校の事務職員からスタートしていろいろな職場を経験させていただきましたが、様々な立場の多くの先輩方から温かいご指導をいただいたおかげで、現在何とかこうして勤められているものと感謝しています。

その時その場面で、琴線に触れる言葉をかけていただき育ててもらっていますが、特に三つの言葉が、深く印象に残っています。

「君の作った書類は、間違いもあるし、大事な公金を支出するという気持ちがこもっていない。最初が肝心だからやり直して持ってきなさい。」これは、新採直後に支払期限に迫られ、何も解らないままに前任者の書類を真似て作成した支出決議書に対して、町教委の教育長さんから受けた指導です。学生気分が抜けきっていない自分に、いい加減な仕事は通用しないという自覚を促し、条例や規則等をきちんと理解して事務処理を行う必要性や公務員としての基本的な心構えを最初に教えていただいたのだと、後になって本当に有り難く思いました。

「どこでどんな仕事をして、存在感のある人でありなさい。頼まれた仕事を断ることは、自分が成長できる機会を自分で絶つことになるから、断らないこと。」この指導は、送別会で上司から饒の言葉としていただきましたが、私なりに次のように職場で具体化してきました。

『ただ目の前に並べられた仕事を手際よくこなして・・・僕

のした単純作業がこの世界を回り回って まだ出会ったこともない人の笑い声を作ってゆく』これは、大好きなMr.Childrenの「彩り」という歌の一部です。自分への応援歌としてよく聴くのですが、現実には目の前に並べられた仕事だけをしていても駄目だと思っています。どれだけ実行できていたかは自信ありませんが、「職場に雑務はない。全て本務だ。」という思いで事務分掌の隙間仕事に心がけてきました。また仕事は準備や事前調整で大方片づくもので、この作業をおろそかにすると失敗や周囲とのトラブルが生じ、後始末に倍以上の手間がかかるという自覚を持って仕事をしてきました。

また、在会3年目の時に、不安ながらも事務職員協会の仕事をさせていただいたことから、たくさんの方々との出会いと学ぶ機会を得ることが出来ました。

最後に、義務制勤務の頃、今後の事務職員の研修活動をどうしていくか、という議論中に聞いた先輩の発言です。「今自分たちが頑張らないと、後輩たちに何も残せない。より良い環境を残すことが、私たちの責任だ」

職務内容の繁雑化、職員定数の見直しなどで、「業務改善」への取り組みが大きな問題となっている中で、事務業務の外注化や共同化といった対応案も話題にあがっているようです。一方、中教審答申の「今後の地方教育行政の在り方」の中で、特色ある学校づくりを実現させるための自立した学校経営を目指すために、学校事務職員が積極的に経営参画することが求められています。

後輩達のために、「業務改善」と「積極的な経営への参画」という二つの大きな課題を、力を合わせて少しでも克服できるような努力をしていくことが、私たちの責任だと考えています。



「生きる力」を育む

長崎市立長崎商業高等学校 校長 浦下悦二

38年間に及ぶ教師生活も、あと僅かになりました。普通科高校に34年勤務し、最後の4年間を2つの専門高校に携わりました。初めての専門高校での勤務は、外から見ていた時のイメージとは大きく違っていて、本当に新鮮なものでした。職員の頑張りや、それに応えようとする生徒の生き生きとした姿勢に感心させられました。もっと若い時に専門高校を経験しておくべきだったと、今更ながら後悔しています。

1校目の西彼農業高校では「生命に学び、生命を学ぶ」を教育理念として、教職員と生徒が一体となり、暑い日も寒い日も動植物の世話をし育てています。それは正に、自分自身を育てているかのように思われます。心を込めて世話をしたものと、適当にしたものでは、その差は歴然でしょう。

長崎商業高校では「文武両道」を掲げ、商業科目の資格取得を目指した自分に妥協しない真剣な取り組みや、部活動に青春のエネルギーを全て注ぎ込む姿は、本当に素晴らしいものがあります。この2つが両輪となって学校が活性化しているように思います。

高等学校として、学力をつけてやることは大切なことですが、私はそれ以上に大切なことがあると思っています。それは、普通科高校であれ専門高校であれ「生きる力」を付けてやることだと思います。「生きる力」とは、「変化の激しいこれからの社会において、自分でたくましく生きていく力」のことであり、具体的にどんな力かという、思考力・判断力・行動力・忍耐力・協調性・自立心・思いやりの心・真面

目さなどであろうと思います。「生きる力」を付けるための特効薬などありません。日々の様々な人間関係や諸活動を実践していく中で、こつこつと獲得していくものです。特に専門高校の場合は、幸いにしてそのような場面が多いように思います。

私は事あるごとに生徒たちに、「皆さんが今やっていることに、無駄は一つもない」と言っています。物事がいつも順風満帆に行くことは、滅多にあるものではありません。努力しても結果に表れず、悔しい思いをすることはよくあることです。結果はどうであれ、それに向かって努力したことは、決して無駄ではありません。その一つ一つが必ず血や肉になるはずで、今やるべきことを、当然のようにしっかりやる。そのことが一番大切なことだと思います。そして、そういう生徒が必ず「生きる力」を付けてくれているものと信じています。



広報部より



メルマガ共々広報誌「ばってん」も、会員の情報交換とコミュニケーションを提供する場です。忌憚のないご意見、ご要望を随時受け付けておりますので申し出てください。

ホームページも情報の更新を行っております。表紙写真、学校紹介等ありましたら、広報部員までデータの送信をお願いいたします。

編集後記

民主党から自民党政権へと替わり、安倍首相の経済政策（アベノミクス）で、今後景気は回復するのでしょうか。学校現場も、体罰問題等予断を許さない状況が続いています。いつになったら我々事務室職員が余裕ある仕事ができるようになるのでしょうか？

本号では、昨年同様に春めでたく御勇退される事務長さん方に執筆をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただき誠にありがとうございました。

また、新任の事務長さんも、無理なお願いにもかかわらず寄稿いただきました。今後もよろしくお祈りします。最後になりましたが、今回、お忙しい中本号への寄稿を快くお引き受けいただきました長崎商業高等学校浦下校長先生、本当にありがとうございました。

なお、本号についてのご意見、ご要望及び秋発行の次号の原稿寄稿をしたい方、広報部にて随時受け付けております。

(R. G)